

令和5年10月12日

## 答 申 書（ 第 一 次 ）

南伊豆町教育委員会  
教育長 佐野 薫 様

南伊豆町立学校統合準備委員会  
会長 高橋 政弘

令和4年8月26日に貴委員会より「南伊豆町立中学校2校の統合について」が諮問され、検討した結果、次の事項について答申いたします。

### 1 答申

- (1) 統合時期 令和8年度
- (2) 統合場所 南伊豆東中学校

※校訓は、「自立・創造・協働」とする。

### 2 理由

#### (1) 統合時期

少子化について、住民基本台帳データを活用した生徒数の推計にて、町内出生数の減少により、少子化が急速に進行していることが読み取れます。町全体の生徒数（特別支援学級含む）は、令和6年度156人に対し、令和8年度147人、令和11年度116人、令和13年度92人と推移します。一方、普通学級の学年別生徒数について、令和6年度から令和9年度では、大半が42人から50人の間で推移し、2校が1校に統合した場合、1学年2学級編制となる見込みです。このとき、統合しない場合、それぞれの中学校で1学年1学級編制となります。その後、令和10年度の1年生37人から生徒数は更に減少し、令和12年度には、全ての学年で30人前後となります。また、学校別の状況は、南伊豆東中学校では、令和7年度の1年生が13人、令和11年度の1年生が13人、令和12年度以降の1年生は更なる減少が見込まれます。（※別表1参照）

この少子化の状況を確認した上で、「学びの質」を考えたときに、教育環境で最も優先すべきことは、一定規模の生徒数になります。授業における「協働的な学び」には、多様な他

者との交流が必要であり、これは、自己の形成と社会性を育み、集団の中での表現力や判断力、問題解決能力の向上に繋がります。他者と学び合い、励まし合い、切磋琢磨することで自己の資質や能力を伸長することが期待されます。

令和3年度から中学校で実施されている新しい学習指導要領では、「一人一人の生徒が、これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、生きる力を身につける」ことを目指し、そのためには「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行う」ことが求められています。

これらのことを踏まえ、新中学校の校訓は、「自立・創造・協働」に決定しました。これは、未来を生きる子ども達のことを第一義に考え、「南伊豆町教育大綱～南伊豆町の教育～」の教育目標である「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を具現化するためのものです。これには、前述した「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実する」ことにより、自立し新たな価値観を創り、この学びを通して、自己有用感の涵養を図るとともに、ふるさとに誇りと愛着を持つ生徒を、南伊豆町全体で育てていきたいという思いが込められています。

以上から、生徒数の減少は、それだけには留まらず、教育の質から自己の形成や社会性の育成に至るまで大きな影響を与えます。南伊豆町の子ども達が、より大きな社会の中で活躍するため、中学校統合が喫緊の課題であることは明白であり、統合の準備期間を考慮すると、令和8年度統合が望ましいと考えます。

## (2) 統合場所

別表2の候補地選定比較表のとおり

## 3 付記事項

### (1) 町立小学校の統合について

児童数の推計において、町全体の児童数（特別支援学級含む）は、令和5年度263人に対し、令和9年度に200人を下回る196人となり、令和10年度には176人と推移します。これは、5年間で児童が約90人減少することを示し、令和10年度の町内児童数は、1学年平均30人を下回る数値です。一方、学校別の状況は、南上小学校では、令和6年度に複式学級が2学級、令和10年度には複式学級が3学級の見込みであり、南伊豆東小学校でも、令和8年度から複式学級が始まり、令和11年度には複式学級が2学級になる見込みです。

教職員の配置について、令和10年度の南上小学校では、普通学級3学級（複式学級3学級）・特別支援学級1学級から、教職員は6名と算出され、養護教諭と事務職は配置されません。また、令和11年度の南伊豆東小学校では、普通学級4学級（複式学級2学級）・特別支援学級2学級から、教職員は10名と算出され、養護教諭と事務職を含んだ数字となっています。（※別表3参照）

児童数の減少は、教職員数の減少だけに留まらず、複式学級の増加により教職員一人一人

の職務分掌は増加します。これは、「学校における働き方改革」が推進されている社会に逆行し、教職員に今まで以上の負担を強いることになり、学校教育に悪影響を及ぼすことに繋がります。教職員の安定的な環境を整えることも、学びの質の確保という観点では、最重要要素となります。

中学校同様、小学校でも「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学び」が求められていますが、児童数の推計結果とこれに伴う教職員の減少は、この学びの質を大きく低下させる要因となります。

平成 28 年 1 月 25 日付け「南伊豆町立南上小学校～学校統合に関する答申書～」において、「統合時期は、複式学級が 2 学級発生する見込みのときは、統合に向け速やかに統合審議会（現在の学校教育環境整備委員会）を開催し、統合年度を明らかにする。」と答申されました。さらに、前述した児童数の推計では、令和 10 年度の町内児童数は 176 人となり、1 学年の児童数平均は 30 人を下回ることが判明しました。

以上から、町内の小学校統合も喫緊の課題であることは明白であり、町内 3 小学校から 1 校への統合をご検討ください。

## 町内中学校生徒数の推移 {令和5(2023)年度～令和16(2034)年度}

令和5(2023)年6月8日

南伊豆町教育委員会

年度(西暦)	1年生		2年生		3年生		計		総計
	南伊豆中	南東中	南伊豆中	南東中	南伊豆中	南東中	南伊豆中	南東中	町全体
R5(2023)	33(1)	17(1)	30	12	26(2)	19	89(3)	48(1)	137(4)
R6(2024)	35(2)	25	33(1)	17(1)	30	12	98(3)	54(1)	152(4)
R7(2025)	30	12(1)	35(2)	25	33(1)	17(1)	98(3)	54(2)	152(5)
R8(2026)	22	20	30	12(1)	35(2)	25	87(2)	57(1)	144(3)
R9(2027)	22	22(1)	22	20	30	12(1)	74	54(2)	128(2)
R10(2028)	19(2)	18(1)	22	22(1)	22	20	63(2)	60(2)	123(4)
R11(2029)	18	13	19(2)	18(1)	22	22(1)	59(2)	53(2)	112(4)
R12(2030)	19(2)	8	18	13	19(2)	18(1)	56(4)	39(1)	95(5)
R13(2031)	23	8(1)	19(2)	8	18	13	60(2)	29(1)	89(3)
R14(2032)	23	17	23	8(1)	19(2)	8	65(2)	33(1)	98(3)
R15(2033)	16	7(1)	23	17	23	8(1)	62	32(2)	94(2)
R16(2034)	14(2)	3(1)	16	7(1)	23	17	53(2)	27(2)	80(4)

※ 生徒数は、令和5(2023)年5月1日現在(賀茂地区校長会調べ)。

※ ( )内の数字は特別支援学級在籍生徒数で、外数である。

## 候補地選定比較表

令和5年6月8日

大項目	小項目	備考	ウェイト	南東中	点数	南伊豆中	点数	差	優劣の理由
建物の健全性	校舎	築年数・損傷度	1	○	2	○	2	0	築年数・損傷度の差引き
	体育館	築年数・損傷度	1	○	2	○	2	0	〃
	地盤		1	○	2	◎	3	-1	南東中は地盤沈下
利便性	通学時間		1	◎	3	○	2	1	バス時間の比較から
	駐車場		0.5	△	0.5	△	0.5	0	
	接道	取付道路の状況	0.5	○	1	△	0.5	0.5	道路幅員・延長距離
安全性	地震		1	◎	3	◎	3	0	
	津波		1	◎	3	◎	3	0	
	土砂災害		1	△	1	△	1	0	ハザードマップから
	防犯		1	◎	3	△	1	2	玄関から教室への距離
経済性	通学金額		1	◎	3	○	2	1	通学金額の比較から
	バリアフリー改修費用	R9着工(予定)	1	◎	3	○	2	1	南伊豆中は校舎外側の改修必要
	維持管理費		1	○	2	△	1	1	5年平均から(南東中)7,380千円・ (南伊豆中)10,980千円
生徒の学びやすさ 使いやすさ	空間・スペース	学校全体	1	◎	3	○	2	1	延床面積は(南東中)3,554㎡・(南伊豆中)2,830㎡ 玄関ホール・3階ホール・廊下の空間的ゆとり
	教室の配置		1	◎	3	○	2	1	南東中は教室から体育館へ直結
教員の教えやすさ 使いやすさ	会議室・相談室		0.5	○	1	△	0.5	0.5	(南東中)3室222㎡ (南伊豆中)1室65㎡
	職員室の広さ		0.5	○	1	○	1	0	
合計)					36.5		28.5	8	

## 【凡例】

◎	3点
○	2点
△	1点

町内小学校児童数の推移{令和5(2023)年度～令和11(2029)年度}

令和5(2023)年6月8日  
南伊豆町教育委員会

年度 (西暦)	1年生				2年生				3年生				4年生				5年生				6年生				学校計			総計		
	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計	南中小	南上小	南東小	計		
R5 (2023)	14	4	13	31	(1)	(1)	(1)	(3)			(1)	(1)	14	8	20	42	25	5	12	42	(2)			(2)	(3)	(1)	(3)	(7)		
R6 (2024)	(2)	9	10	8	27	14	4	13	31	(1)	(1)	(1)	(3)			(1)	(1)						(1)	(1)	(3)	(1)	(3)	(7)		
R7 (2025)		18	5	8	31	(2)			(2)					(1)	(1)	(1)	(3)			(1)	(1)				(3)	(1)	(3)	(7)		
R8 (2026)		16	7	17	40			(1)	(1)	(2)			(2)					(1)	(1)	(1)	(3)			(1)	(1)	(3)	(1)	(3)	(7)	
R9 (2027)		12	4	7	23	16	7	17	40			(1)	(1)	(2)									(1)	(1)	(1)	(3)	(3)	(1)	(3)	(7)
R10 (2028)	(1)	12	(1)	2	3	17	12	4	7	23			(1)	(1)	(2)					(2)					(3)	(1)	(3)	(7)		
R11 (2029)		9	14	12	35	(1)	(1)	(1)	(3)			(1)	(1)						(1)	(1)	(2)			(2)	(3)	(1)	(3)	(7)		

※ 児童数は、令和5(2023)年5月1日現在(賀茂地区校長会調べ)。

※ ( )内の数字は特別支援学級在籍生徒数で、外数である。